

令和7年12月 日

郡市区等医師会長 様

一般社団法人 箕面市医師会  
会長 中 祐次

## 令和7年度 箕面市医師会講演会ご周知方お願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

今般、下記のとおり講演会を開催いたします。誠にお手数乍ら、貴会会員様にもご周知いただきますようお願い申し上げます。

敬具

記

日 時：令和8年1月7日(水) 午後2時

主催共催：箕面市医師会、大阪府医師会

会 場：豊能広域こども急病センター3F (Zoom 併用)

講 演：「令和6年能登半島地震および9月豪雨を経験して得られた教訓と

地域再生における医療の役割について」

講師：大石 賢斉先生(石川県輪島市 医療法人 山桜会 粟倉医院 院長)

令和6年元日の能登半島地震により、人口約2000人の輪島市町野町は、数日間地上からのアプローチが不可能となり、ライフラインもすべてが途絶した。

倒壊家屋の下敷きとなり約20名が亡くなり、多くの負傷者が出た。町内唯一の診療所である粟倉医院も機能を失い、傷病者が助かる道はへり搬送される他なかった。そんな状況で自然発生した医療チームは、やれることに限界はあるものの、住民と協力し合い、変化し続けながら有機的な活動を続けた。1月6日までに約30名がへり搬送され、DMATの実働隊が入った12日にはすでに町野の急性期は終わっていた。同年9月の能登半島豪雨では、地震で生じた土砂崩れが拡大し、再び町野は孤立した。土砂と木が激流と共に駆け下り、町野町を貫く町野川流域では4名が亡くなった。6月より再開していた仮の診療所も深さ2.5mの濁流に飲まれ、一切の医療機器が使用不能となった。

一連の自然の変化により人口減少の速度が10年早まったと言われる奥能登だが、いかなる潮流にあっても人は人として力強く幸せに生きていけるはずだ。そのために果たして医療者は医療だけをしていれば良いのだろうか。人間社会における専門性の枠組みに囚われず、自然の循環の一部としてまずやるべきことはないか。町野町における医療の立ち位置と、今後起きうるより大きな変化に対応するために何を大事にどのような活動をしているかをご紹介する。

※日医生涯教育カリキュラムコード 12 (予定)

Zoom 招待リンク (事前登録必須)

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_pepwoYK-T5e6hg1QLqDwRg](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_pepwoYK-T5e6hg1QLqDwRg)



※会場参加の場合、下記宛で一報ください (ご氏名、所属医師会を明記ください)

箕面市医師会 (FAX: 072-728-7158、Email: ishikai@oregano.ocn.ne.jp)